

記念講演

# 原発危機と平和

ホロコーストから原発まで



ダニー・ネフセタイ さん



## 家族のルーツ

イスラエルという国は、アジアの反対側、日本から900km離れた場所にあり、四国くらいの大きさで人口は埼玉県と同じ700万人くらいです。

戦争が今でも続いている、悲しくも戦争で有名な国です。それがなければ名前も知らないくらい小さな国です。幅100km長さ500km、ヨルダン、ガザ、パレスチナの独立問題が続いていて、先日もテロがあり、イスラエル人が4名死亡しました。



これからも続くでしょう。

言語はヘブライ語、アラビア語、英語も話します。なぜこの話からするかというと、イスラエルの殆どの人々のルーツには違いがあり、私の父方の両親は 1920 年ポーランドから、母方の両親は 1924 年ドイツから移住してきました。祖父母の代くらいまでイスラエル人は他国から移住した人が殆どでした。父方の祖父は 1902 年ポーランド南部のオシフィンエチムという、35,000 人ほどの本当に小さな田舎町出身でした。

1939 年ドイツ軍がポーランドを占領、ポーランド語名のオフィエンチムという、響きが気に入らないとドイツ語名のアウシュヴィッツに変えました。祖父の生まれたときはまだあの死の工場ではありませんでした。その後ユダヤ人大量虐殺の前に移住しました。

### アウシュヴィッツ収容所

アウシュヴィッツ収容所はナチスによって造られ、ユダヤ人を集め最終的にはガス室で殺します。運ぶ手段は貨車でした。1 台にだいたい 150 名。入り口には鍵をかけ、窓、トイレ、食料はありませんでした。遠いところは北欧スウェーデン、ノルウェーから運ばれ、約 3 週間か

ら 150 日かかり、もちろん到着した時点で殆どの人が亡くなっています。

生き残った者たちは選別されます。それは仕事ができるかできないか。できないとみなされたものはガス室行きでした。7 割は仕事ができないとみなされました。貨車から生きて出られたとしても、仕事ができないと命は長くて半日、短くて数時間でした。仕事ができるものはとても狭い部屋に入れられ、毎日過酷な仕事に行かされます。朝は早く起こされ、まずトイレ、丸い穴が開いただけのコンクリートで作られた長椅子が 3 列。一度に 18 人ずつ仕切り流す水、トイレトーパーなどありません。与えられた時間は 20 秒。それ以降は夜 10 時までトイレに行くことはできませんでした。

アウシュヴィッツでは人体実験もされていました。ドイツ軍が特に好んだのは双子での人体実験でした。目的はドイツの人口増加です。すべての女性が 1 度の出産で双子を産むことができれば人口は 2 倍のペースで増えていく。そう考えたドイツ人は、ユダヤ人の双子を使ってそのための実験をしていました。この人体実験から奇跡的に生き残った 2 組の双子の体はガリガリにやせ細り、その苛酷さが伝わってきました。

次に母方の祖父について、1920 年ドイツから移住。祖父には一卵性の双子の兄がいましたがドイツに残りました。当時は国中家族の中ですら移住するか、残るか意見が分かれていたのです。戦争など始まるはずはないと思うものは残り、始まるかもしれないからその前に何かしなくはと思うものは移住し、私の祖父は移住を決め助かりましたが、兄たちは残り、最後はアウシュヴィッツで殺されています。

## アウシュヴィッツ強制絶滅収容所 (ポーランド)



ユダヤ人 110 万人がアウシュヴィッツで殺され、その 1 人 1 人の名前をイスラエルはすべて調べました。その中に兄たちの名前もありました。兄たちが人体実験をされたかまでは不明です。ドイツは敗戦を悟ると、徹底的に証拠隠滅をしましたので、今でも内容は不明なことが多いのです。でも殺された人たちの名前だけは少しずつ情報を集め何とか調べたのです。

アウシュヴィッツを運営していたのは、ナチスドイツ軍でした。兵士は男性はもちろん女性もいました。兵士たちは仕事が終わるとアウシュヴィッツから 3km しか離れていない保有施設に交代で帰って行きました。施設で撮った 1 枚の集合写真があります。それはとてもにこやかに和気あいあいとした写真です。が、彼らはこの写真をとる 1~2 時間前まで自分の目の前で数千人の死を見ているのです。1 番多いときには、1 日 5 千人程殺されていました。

また数百人の人体実験も見ているはずです。殺された者、実験台にされた者のなかにはもちろん子ども、老人、女性、男性もいます。ですがこの保有施設での写真を見る限り、誰一人として自分がすごく残酷なこと、悪いことをしているようにも反省しているようにも見えません。これほど過酷なことをしていて、なぜ平気でいられるのでしょうか？ このなぜ

はこれからの話の最後につながります。これらすべてナチスがやったことです。

これについて日本で発言している人がいます。「ナチス政権の手口を学んだらどうかね」といった発言をしたのは麻生太郎です。いったい何を学べというのでしょうか。ふつう政治家がこのような発言をするとその時点で辞職が当たり前ですが、日本ではなかなかそうなりません。そんなのおかしいともっと危機感を感じるべきです。



### イスラエルの建国と戦争

ホロコーストが終わって 3 年後、1948 年までイギリスの領土でしたが、イスラエル国として独立します。それからイスラエルの戦争…戦争…戦争の歴史が始まります。1967 年の戦争でシナイ半島、ガザ地区、ヨルダン川西岸を占領。のちシナイ半島はエジプトに返却されます。その見返りとしてエジプトと今でも続く平和条約を結びますが、ガザ、ヨルダンについては、まだイスラエルにあり、この地域については今でも未解決のままです。

イスラエルでは徴兵制があり、男性だけでなく女性も行きます。男性は 3 年間、女性は 2 年間。私は空軍でパイロットを目指しましたが、途中でパイロットには相応しくないと同じ空軍の特殊部隊に移されました。私が軍にいたときに使っていた戦闘機、今では練習用ですが当時は立派な戦闘機でした。この機で 80 回くらい 1 人乗りは 20 回ほど飛ばしました。19 歳のころでした。その頃の写真も残っています。

戦闘機はとても精巧で優れている機械です。何に優れているかというと、それは殺人と破壊です。この二つについてはものすごく優れていて、そんな機械に子

どもを乗せ「あなたがこの機械を使いこなせば、毎晩イスラエルの子どもたちは安心して眠れますよ」と言われると、「よし！がんばるぞ！」という気持ちになります。私もそうでした。「とにかく国民のために頑張る！」そんな気持ちでした。ですが19歳…まだまだ子どもです。

自分が頑張れば頑張るほど他国は破壊され、その国の子どもたちは安心して眠れない。そこまでは想像もつきません。それに気づいたのは何十年も先でした。外からイスラエルという国をみて気づくことができました。国内にいる国民たちは今でも気づけない人が多いでしょう。

2年前イスラエルに帰り、姪っ子の小学校を見てきました。校庭にはその学校に通っていて戦死した生徒の名前が刻まれた、礎のようなものが小中高すべての校庭にあり、生徒たちは毎日それを目にしています。小学生はまだ実感はありませんが、高校生は来年、再来年は自分も戦場に行くので別の目で見えています。これを見て高校生は「あっ！オレはここがいい」「私はこっちがいいな田舎っぽくて」などと冗談を言うのですが、数年後本当に自分の名前が載ってしまうのは珍しいことではありません。

これは70年前の話などではなく、いま現在の話です。また礎の隣には軍で使っていた戦闘機、大砲、戦車などが置かれ



ています。これを見た子どもたちは「やっぱり自分たちを守るために武力は必要なんだ」そういった教育が幼いころからされています。

最近日本でもこのような教育は始まっていて、防衛省発行の「MAMORU」という本で内容は自衛隊ではこんなにすばらしく、とても良い経験ができますといったもので、本だけでなく電車の中吊り、学校のポスターなど「国を守るために武力は必要だ」といった教育が始まっています。



## 東日本大震災と原発事故

2008年12月、イスラエルがガザを攻撃しました。その後、私は「平和への願い」という講演活動を日本からイスラエル人に向けて始めました。その3年後、3月11日、東日本大震災、日本中が大変ショックを受けました。私もそうでした。ですがもう一つ私が感じたことは、調べれば調べるほど見えてくる「原発産業と軍事産業」の共通点でした。それから私は「平和への願い」といった活動を再編集し「原発危機と平和」という活動を始めました。

広島での原爆と経験、それから被爆に

ついでの研究、講演活動をしている「肥田舜太郎さん」と何度か対談する機会があり、その中で一番印象に残ったのは「原発半径 160km」です。それはアメリカで 45 年間、3500 ヶ所で続けられている健康調査の結果で、160km 以内に乳がんは多く、160km 以外だと減るといったものでした。アメリカの原発の場所と乳がんの発症地域、それは恐ろしいほど重なるものでした。

では日本の原発の周りに半径 160km の円を書くとどうなるでしょう。北海道の東、四国の東、紀伊半島の東、以外はすっぱり埋まってしまいます。したがって原発は事故がなくても、それがあるだけでがんが増えるといったリスクがあるのです。リスクや問題があったとしても、必ずしも原発が原因という証拠はなく、国は証拠がないのなら、とりあえず再稼働をすすめます。ですが原発が原因でない証拠もありません。

ならば徹底的に調べ、100%の安全が確認されるまで待つべきではないでしょうか。これでは国民の事を考えているとはとても思えません。国中のどこにでもゴミ処理場ってありますよね。煙突の高さ知っていますか？ 59m です。それはなぜか、日本の航空法により 60m 以上になってしまうと上部に灯りをつける申請が県ではなく国になる等、お金も時間もかかっています。結果、安く早くできる 59m になりました。

煙突から出る煙に含まれるダイオキシン等、周囲に住む者達の健康などまったく考えているようには思えません。安い早いそれだけです。ですが千代田区にある 2 ヶ所のゴミ処理場の煙突だけは 130m、180m、なぜでしょう。それは東京に原発を作らないのと同じ理由でした。「上の者のためには、お金も時間も使う

が、下の者のためには使えない、犠牲になるのは下の者です」。

私は、原発事故を徹底的に調べました。福島原発の作られた丘は当時 30m ありました。工事を担当したアメリカのゼネラル・エレクトリック社は当時、福島の数百年分の津波の歴史を調べ、20m に削れば広い場所もとれるし津波の心配もないと提案しました。ですが東京電力は 10m まで削ってほしいと、理由は冷却に使用する水は 1 秒間に 25 トン、1 時間で 3600 回、24 時間 365 日使用すると、10m に上げるのか、20m に上げるのかではコストは倍近く違いました。

東電は 20m のコストは使えない、なぜなら原発が一番安い電力源だと東電は言っていたので、20m まで上げてしまうと一番安い電力源ではなくなってしまう。結果 10m まで削り、第一原発を作ることを決めたのです。そしてあの大震災の日、津波の高さは 15m、地震の揺れでも建物などの被害はありましたが、致命傷になるほどではありませんでした。一番の被害はすべて津波によるものでした。

今、私たちが抱えている原発の問題はすべてここから始まったのです。あの時ゼネラル社の提案を受け入れていれば、この事故この問題は無かったと言っても過言ではないでしょう。ここでも国民の安全・安心は後回し、利益と効率重視のように感じられます。地球の 7 割は海、3 割が陸、その 3 割中 0.25%が日本です。こんな小さな日本が世界の 12.5%の原発を保有しています。さらに福井県は世界の原発の 3%が集まっています。

また世界の大地震の 2 割は日本で起きています。日本は地震大国であり、私たちはそういう国に住んでいるのです。原発が地震大国にある。今まで事故がなかったことが不思議なくらいです。こうい

う国に原発を作ってははいけません。



## 東電と福島第一原発

あの震災以降、福島ではずっと除染が行われています。ほとんどの土地は人が住めなくなりました。除染で出た廃棄物は1度、福島中にある仮置き場へそこから仮置き場へ、仮置き場は県内に数か所あり、すでに600万袋、1袋1トン、この除染廃棄物はまだまだ増え、5倍くらいになるのではないのでしょうか。そしてこの仮置き場はすべて海から近い場所にあり、次の津波がくることがあれば、これらの廃棄物は福島すべての場所に戻ってしまうことでしょう。ですがあくまでここは仮置き場です。

国内に最終処分場を造る計画は進められていて、30年以内には福島県外へ出されることは決定されています。ではこの廃棄物が最終的にどこへ行くのか…今は言えませんが既に決まっています。秘密保全法はこういったことを隠すためにつくられたのでしょうか。

2年前福島県南相馬のある家族のもとへ行きました。渡辺さんご一家です。渡辺さんは「私たちは何も隠すことはないの、名前・写真すべて出してください。隠すからこんな日本になってしまったんだ。」と…。渡辺ユウジさんは、第一原発を事故の2年前に定年退職しました。それまで25年間勤めていました。「第一原発がこんなことになってしまい、今はどうのお気持ちですか？」という問いに、渡辺さんの答えは意外なものでした。「私は、25年間ずっとだまされていました。ありがたいという気持ちは一つもありません。」ですが25年間だまされていると思いが、らなせもっと早く声を上げなかったのか。

渡辺さん曰く「それは沖縄の米軍基地問題と同じなんです。沖縄県は日本の法律の下、いろいろなことを行います。ですが、米軍基地に入ってしまうと、日本にいながらもそこはアメリカの法律になってしまいます。これによって米軍の犯罪はほとんどがうやむやにされてしまいます。原発も同じで、福島県は日本の法律の下にありながら原発に入ると東電の法律です。日本の法律は関係なくなってしまう。ヤクザと同じすべて脅しの世界になってしまいます。入社と同時に社員の弱みを見つけ、内部情報を一つでも口外すればすべてばらすぞ。そういう世界でした」。この話は他の方々からも聞くので事実でしょう。

東電の人権を無視したやり方はアウシュヴィッツと同じです。イスラエルでは高校2年生くらいまですべての子どもが1度は必ず見学に行きます。それはただ見に行くだけでなく、事前にアウシュヴィッツの歴史、殺された人たちの記念碑、武器を学ぶ。その教育で育った若者たちが見学に行きます。

私たち家族も4年前アウシュヴィッツに行きました。そこで感じたことは「やはり人権とは大切」。ところがイスラエルの子どもたちは別の教育を受け何を感じてイスラエルに戻るかという、「やはり国を守るためには武力しかない」という気持ちで国に帰ります。

私たちユダヤ人はアウシュヴィッツで大量虐殺されました。2度とこういうことが無いようにするには強い武力をもつしかない!! と思います。そして、イスラエルではこのような考えの者ほど優秀だとされています。そしてこのような国は、常に強く新しい戦闘機を買います。ところが最新機能の戦闘機を買っても、3年後には敵国も同じものを手に入れます。

するとさらに最新機能の物を買う、3年ごとに繰り返されます。そのたびに値段も数億円ずつ上がっています。

今イスラエルの使っているのはアメリカ製のF15・16ですが、アメリカはすでにその先の機を作っています。「F35」です。この戦闘機の開発製造には日本も関わっています。常に新しい戦闘機が出てきていますが、古い機はどうなるのでしょうか。日本は不明ですが、イスラエルでは第3世界、テロ組織など利益になるならどこでも平気で売ってしまいます。

アメリカは外に出すことはなく、国内にある戦闘機の保管場所に保管されています。中には一度も使われていなかった機も多数あります。次々と新しい機ができそれを買う、の繰り返しで国の予算はどんどん使われています。オスプレイもその一つで終わりはありません。

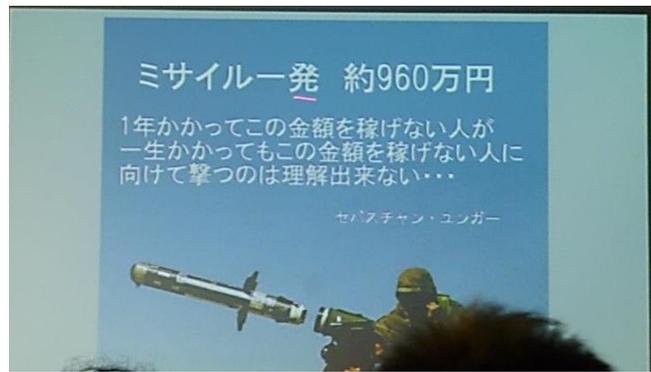


### 戦争と原発の共通点

ここで戦争と原発の一番の共通点は？ 少しい人の利益のために大勢の人の命が犠牲になる。戦争も原発もまったく同じです。問題は犠牲をどう正当化するかです。「これは国のための犠牲です。とてもすばらしい、一流の場所で祀りましょう」。本当に簡単な言葉でだまし、戦争、原発と自分たちの思う通りにしやすくします。

ではなぜ戦争や原発をやめられないのか。理由は一つ「利益になるから」。すでに日本でも武器製造は始まっています。

「弾丸一発ごとに1人死に、1人金持ちになる」。ここでポイントなのは、一発ごとに死ぬのはすべて別の、金持ちになるのは同じ人なのです。すべてこの人の利益です。さらに利益になるのは戦闘機です。F35は3種類作っていますが150~190億円の予定ですがさらに高くなる



かもしれません。

なぜなら、アメリカが作り始めた2002年当時は40億くらいだろうと言われていました。こんなに高い戦闘機をいったいどの国が買うのでしょうか。それはイスラエルが75機、アメリカが2363機、日本は10機といわれていますが、本当は40機買う予定です。約200億円の機をこれだけ買う国があります。アメリカだけでも約38兆円、日本は6400億円です。福島の人に4年半もの間、仮設住宅で生活させながら平気で6400億円を戦闘機で使おうとしています。

ちなみにアメリカで38兆円を使い戦闘機を買うのは「ノーベル平和賞」をもらったあの人です。もうひとつF35の悲しい事実は、F35の部品の4割は日本製です。一機200億円の戦闘機の部品4割の利益はすごいでしょ。ですが戦争が無くては売れません。そうすると国は戦争のきっかけを作るようになります。最近、日本とイスラエルの関係が深まっているように思えます。集団的自衛権のことなども踏まえると、次回のガザ攻撃では日本製の部品で作られた武器により、パレスチナの子どもたちは殺されるでしょう。

さらに10年、20年後おそらく日本の自衛隊もパレスチナの子どもたちを殺すでしょう。昨年イスラエル軍によって破壊されたガザの写真があります。私を見れば日本の自衛隊を思い出します。自衛隊の衛とは守るということです。英語



にすると Japan self-defence force (日本を守る軍隊) の Defence Force は私のいたイスラエル軍でも使われていた言葉で、イスラエルを守る、日本を守る軍隊と同じです。

去年のガザ攻撃でイスラエル軍は2208人のパレスチナ人を殺しました。その中には577人の子どもが含まれていました。なぜ国を守るはずの軍隊が子どもまで殺せるのか？ 攻撃するのではなく、守る軍隊のはず。答えは「守る」という概念はとても曖昧で考え方で国を守るためなら子どもも殺してしまえます。

9月に決まってしまった戦争法(集団的自衛権)によって、「敵国の子どもはいずれ日本を攻撃するだろう」と簡単に「守る」という概念にあてはめられます。戦争法は危険ではないと言っているが、その中の一つ「国際法を重視して行う」、この説明を聞くと安心・安全と思う人もいるが、去年のガザ攻撃について、イスラエルは今でも「国際法を重視して行いました」と。

国際法とはなんでしょう。国際法を使い日本の戦争法を説明すると、限りなく外交をいかしますが、万が一の場合は軍隊に頼ります。これを聞くと「ちゃんと外交重視と言っている」と思いますが、外交とは外務省で行っています。約4753名、予算6850億、1日18億、1時間7820万円、1分130万円使っているにもかかわらず

わらず失敗したら軍隊に頼る？ 軍隊に頼る前に、もっと他にすべき事があるはずです。外務省と自衛隊の予算の違いを見れば気が付くはずです。外務省6850億、自衛隊4兆9800億、外交を重視しているようには思えません。

今、日本がやろうとしていることは、学校で例えると、当校では生徒同士の問題は話し合いによって解決させます、万が一解決できない場合は、戦いによって解決させることもあります。こんな学校に安心して子どもを預けられますか？ 何があっても話し合いで解決を望みますよね。

国も同じではないでしょうか。では「普通の人には戦争を望んでいるのか？」、普通の人にはすごく曖昧な言葉ですが、なぜあえてこの言葉を使ったかという、古いこの言葉を使って名言を残した人物、それはあのナチスドイツの空軍総司令官のヘルマン・ゲーリング、自分の死刑判決後、服毒自殺する直前に残した言葉で「もちろん普通の人間は戦争を望まない、しかし最終的に政策を決めるのは国で、必ず国は自分の向きたい方向に向けていきます」。

ここで大事なポイントが三つ、一つは「攻撃される」です。日本が攻撃されるとなれば国民はなんとかしなくては、と思います。二つめは「平和的外交で解決を」と口にする者は愛国心に欠けている、と村八分にされます。三つめは「脅し」、これは戦争を望むすべての者が使う手口です。今の日本でもイスラエルでも使っています。周りの国が自国にとって危険となれば、国民もさらに強い軍隊武器を求めるようになります。

3年前のイスラエル首相が国連で演説した内容です。「イラン核開発の最終段階は今70%ほど、90%になってしまったら

世界は終わってしまう。そうなる前にイランを攻撃しよう。2013年の夏までにはどうかしないと世界は終わってしまう」。だが今でも何もありません。これは2012年9月の話です。

1984年4月の新聞の一面にもまったく同じことが書いてあります。イスラエル軍は同じ脅しを31年間使い続けているのです。日本は同じ脅しではなく、ソ連・ロシア、次は中国、北朝鮮、常に敵を変えると脅しを続けます。

今の日本とイスラエルの共通点は「武力で解決」です。戦闘機のミサイル、一発だいたい960万円かかります。これについてすばらしい言葉を残した方がいます。「ミサイル一発分を一年間で稼げない人が、一生かけても稼げない人に向けて撃っている」。これが現実なのです。



### 「想定外の事故」

86年4月26日のチェルノブイリ原発事故、初めての大きな原発事故でした。これを見て本当は原発がどれほど危険か気づくべきでした。ですが国は言葉巧みに日本とロシアでは技術力が違う、日本でこんな事故が起きるわけではないと。国民も信じました。そしてあの3・11、同じ事故が起きたのです。

95年1.17阪神大震災、それまでは高速道路が横倒れになるとは誰も思っていなかったでしょう。1年前アメリカで高速横倒れ事故のニュースを見て、日本ではありえないとそう思っていました。ところが一年後の阪神大震災で同じことがありました。アメリカの事故では技術の問題を認めました。日本ではそれはすべて「想定外の事故である」。そう、この言葉は3・11で初めて出た言葉ではありません。日本はすべてこの「想定外」と

いう言葉一つで国民もそれを信じ、安心しきっていました。ですがこれで気づいたでしょう。「絶対的な安全はない」と。私たちは自分の子ども、孫を守り続けるためならば、時間もお金も惜しまずなんでもします。親であり祖父母であり人間として当然です。

では少し想像してみてください。3・11のような大震災はいずれまたきます。それは明日なのか50年後なのかはわかりませんが、いつか必ずその時はきます。それは地震だけではなく。津波もそうです。日本中の原発はすべて海に近い所にあり、すべて第二の福島第一原発になりうる可能性は十分すぎるくらいあります。

では私達はこの世の中で自分達の子どもをどう守るのか、私達は子どもを大学へ行かせるため、夫婦共働きで頑張っています。それはどの国も一緒です。ではなぜ大学に行かせたいか、それは子どもの将来を考えてです。ですが「子どもの将来を考える」という言葉の意味合いは、3・11以降、今までの「子どもの将来を考える以降ではたいぶ変わりました。3・11以降、今までの「子どもの将来を考える」という意味合いだけでは守れなくなってきています。原発は日本中どこにもあります。

どの原発もいずれ第二の福島第一原発になりえるのです。ここで大事なポイントは次にくるであろうということ。災害の規模は分らず、それでもどんな規模の災害にも耐えられるものは、神様以外には絶対に作れません。

私は家具職人です。子ども用のイスも作っています。子どもイスの注文がきた時、頭の中で色々計算します。子どもはだいたい何kgくらいか、15kgから大きい子で40kgくらいか、では40kgに耐え

られるイスを作ればいいのか？ そうでは  
ありません。親が座る可能性もありま  
す。例えばお父さんが座った場合、そ  
と座れば70kg、でもドカッと座れば70kg  
の体重の人でもイスにかかる負荷は  
100kgになります。

したがって子どものイスを注文されて  
も100kgまで耐えられるイスを作ります。  
ですがこのイスに200kgのお相撲さんが  
座ったら、間違いなく壊れるでしょう。  
では200kgに耐えられるイスは作れない  
のか…いいえ作れます。そのための絶対  
条件が一つあります。それは「200kgに  
耐えられるイスを作ってほしい」。そうす  
ればドカッと座っても大丈夫なよう  
250kgまで耐えられるよう作ります。

原発も同じです。震度7に耐えられる  
ように、20mの津波に耐えられるよう  
にと言われれば、今の日本の技術なら作  
れるでしょう。ですがこの先、震度7以  
上の地震が絶対に来ないと誰が言いま  
すか？ そう考えると、やはり日本に原  
発を作るべきではありません。

昨年9月、家族で屋久島へ行きました。  
屋久島に着く前に鹿児島に一泊しまし  
た。せっかくなので川内原発見学へ、  
原発内を案内してくれた方は、原発は  
いかに安全か、その事しか説明しませ  
んでした。見学後フェリーに乗って屋  
久島へ。目の前には桜島、地図で見  
ると、原発と桜島は50kmしか離れ  
ていません。大噴火したらどうなるの  
でしょう。

当然みなさん考えていることは一緒  
ではないでしょうか。もちろんそのこ  
とを九州電力に確認しました。答えは  
、「大噴火時のシミュレーション動画」  
です。桜島から50km離れた所に川  
内原発があります。噴火から2分噴煙  
が広がります。30分後溶岩と噴煙  
で九州ほぼ全体が壊滅状態ですが、  
原発だけは不思議と無事

です。こんな都合の良い災害あるわけ  
がない！ ですがこの都合良く作られ  
たシミュレーションによって川内原  
発の再稼働は決まったのです。

昨年大雪が降りました。それは秩父  
も同じで2月9日、20年に一度の大  
雪と言われました。みんな「これから  
20年は安心だ」と。ところがそれか  
ら一週間、なんと100年に一度の大  
雪が降りました。1mは積もったでし  
ょう。



### 想定外は必ず来る

そこで再確認したことは三つありま  
す。一つめ、何年に一度はあてになら  
ない。3・11の大震災は800年に一  
度と言われているのですが、もしか  
したら明日1500年に一度の地震が  
くるかもしれません。だから常に安  
心してはいけません。

二つめ、行政は何もできない時があ  
る。秩父の大雪では、道が開くまで  
1ヶ月、私たちは自分達の力でなん  
とか乗り切りました。次に来る災害  
が春の晴天の日中にくるとはかぎ  
りません。真冬の大雪の夜中かも  
しれません。そうなったらほとん  
どの人は助からないでしょう。

三つめ、想定外は必ずある！ だか  
らこそ想定外に耐えられない物を作  
るべきではないのです。福島汚染水  
タンクを見ると思います。汚染水  
はまだまだ出ているのだと、なら  
どう隠すのか？ フタをすれば気に  
しなくなる。それは東京オリンピック  
です。オリンピックを日本に持って  
きた人達、それはあの渡辺ユウジ  
さん達を25年間だまし続けてきた  
東電です。

もちろん今でも私達をだまし続け  
ています。チェルノブイリではた  
くさんの奇形児が生まれています。  
福島でもそうです。これから増  
えていくかもしれません。

そんな時、確率の問題は関係ありません。なぜならばどんなに確率が低かろうが、万一自分の子どもが原発が原因でそうなってしまうたらどうでしょう。それはしょうがないでは済まされません。許される訳がありません。

人での奇形はまだ確認されていませんが「耳のないウサギ」「奇妙な形のしいたけ」「日本の黒毛和牛の体に白い斑点」どんどん増えてきています。特に和牛の白い斑点については3・11以前の確認はなく、3・11以降からです。そして人間では甲状腺がんが増えています。当時104名だったのが、今は120数名まで増えました。そしてこの結果（現実）を国に見せても答えは「因果関係は証明できない」、この一言で片づけられてしまうのです。たしかに因果関係は証明できません。証明することはとても難しいです。

国は因果関係が証明できないからと、再稼働をどんどんすすめます。でも本当は証明できないから再稼働はまだやらない、そして安全を証明できた時こそ再稼働をするべきではないでしょうか。「因果関係は証明できない」、この言葉が使われていたのは、この時がはじめてではありません。「水俣病」の問題も50年ほどかかって、やっと国が自分達の非を認めました。おそらく福島も同じことになるでしょう。今も事故後も健康に影響が出るほどではないと言う人達があります。あの水俣病の時もそうでした。

では、水俣病と福島の共通点は（意見を出している先生達は何を言っても責任をとる必要はない！）、結果が出るのは何十年も先です。その頃には、いま無責任に「大丈夫」と言っている人達は、職務を継続していないでしょう。だから言いたいことを何でも言えるのです。実際にどうなるのかは誰もわかりません。自分



の子ども・孫を実験台にしますか？ 私ならしません。50年後ガンになり「もっと気をつけていればよかった」なんて簡単に納得できないはずです。

芸能関係、会社の上司、学校の先生など例外の方も最近はいますが、例外以外の方の共通点は「心」を使っていない。自分のことしか考えていない。力はあるのに福島の人、川内原発のある九州の人のために声をまったくあげません。その中にも少しずつですが声を上げはじめている人達はいますが、まだまだ少ないです。声をあげない人達、それはなぜでしょう。ここで先に話したアウシュヴィツの話に戻ります。

 おかしいと声をあげよう！

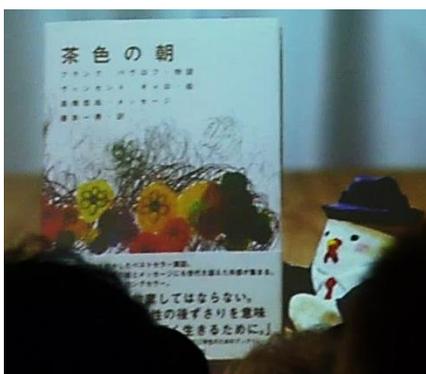
あれだけ酷いことをしながら誰も声をあげる者がいなかったのは、答えはこれです。「立場上個人的な意見は言えません」。どうですか、私達の身近にたくさんいるはず。「福島で127人の人達が今も苦しんでいます」と問いかけても、帰ってくる言葉は、そう「立場上個人的な意見は言えません。」これです。この言葉が存在しているかぎり、この先何もかわることはないでしょう。

アインシュタインは色々な良い言葉を残しています。「世の中はなぜ危険がいっぱいか」というと、変な人や悪い人がいる

からではなく、それを見て見ないふりをする人が多いから」と言っています。

今の日本はほとんどが右を向けと言われれば右を向き、左を向けと言われれば左を向きといった状況です。

『茶色の朝』という本を知っていますか？ フランスの本で、内容は「どうやって国民を自分達の方向に向かせていくか」が書いてある本当にすばらしい本です。



今の原発再稼働、秘密保本法、集団的自衛権などの問題はまさにこの本に書かれています。

います。

やっぱり疑う心は必要です。本当に守ってくれるのか、私達の人権を守ってくれるのか、いくら政治家ができると言っても疑う心をもつことは大事です。中世ヨーロッパは格差社会でした。上の者達は優雅に生活、下の者達は過酷に労働、格差は広がり 1789 年、フランス革命が起きたのです。格差社会に反発して起きた革命でしたが、その後、格差社会はもどってしまうのでした。上の者達は簡単にお金が手に入り、下の者達は労働が増える、現在はどうでしょう。働く場所、環境がキレイになるなど多少の変化はあるものの、働いても働いても貧困から脱することができないワーキングプアです。

ですが、これは最近のことではないのです。日本語に直すと「貧乏暇なし」です。新しい言葉ではありません。今はネット、雑誌、色々調べられます。閣僚の資産知っていますか？ 1位は約5億、2位4億、3位1億、ここで何が悲しいか

というと、やっぱり日本はお金持ちでないと政治家にはなれない。そういう人達のはたして一般市民の気持ちが理解できるでしょうか。復興大臣の竹下さん、4億も持っている人が仮設住宅に住む人達の気持ちが理解できるわけがありません。だから4年半たった今でも仮設住宅から出られないのです。

今の私達がフランス革命の時と違うのは、色々な情報が手に入ります。上の者達もそれはわかっている、自分達に都合の悪い情報を知られたとしてもそれを使わせないように法律を作ります。それが秘密保護法で、今は学校で政治の話をしてはいけません。これからは中学生でも選挙権を持つのに、政治の話もできずどう選挙に関われるのでしょうか。こういう矛盾はどんどん増えていきます。ナショナリズムをあおるためです。そしてマスコミにも大きな制限を与えます。



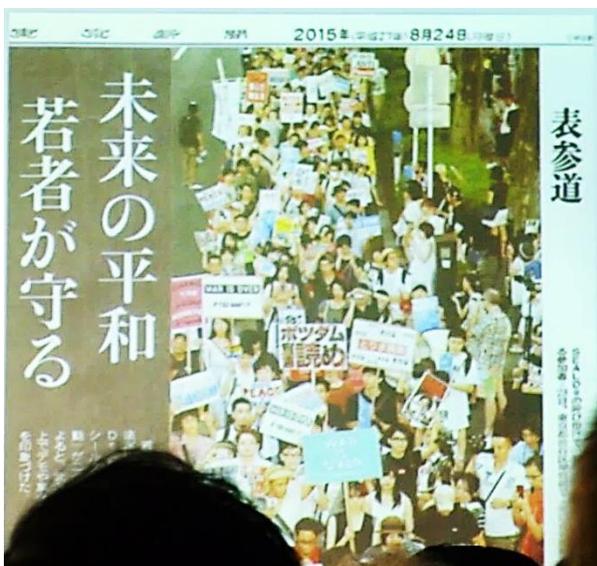
私がちゃぶ台の取材を受けたとして、「今の日本では私はこれからちゃぶ台を作れません」と言ったら、「これは番組では使えません」と言われます。ですが、これからも取材を受ける時、私は必ず「取材するなら私はこれからちゃぶ台を作るため、戦争と原発があつてはいけません。でなければ私は作り続ける事ができません」という条件を出します。

まさに今このような国づくりがすすめ

られています。「声を上げられないような国づくり」です。日本は少しずつ傾いています。戦争に向かって少しずつ準備は整い、戦争まであと一歩のところまできています。戦争をしてはいけない国が、戦をしてもよい国になろうとしています。武器を輸出してはいけない国が、これからF35の部品を日本で作ります。そして自由な発言もできない国、3・11を経験しても原発の再稼働をすすめる国、こんな国は危険です。止めるべきです。

これを理解するために必要なもの、それは「心を使う」、心を使えば自分の子、他人の子、関係なく悲しませたり苦しませたりすることはしません。戦争のない世界を子孫に残す責任があります。少なくとも私達が親から受け継いだこの世界を、同じかそれ以上の世界を残さなくてはいけない義務があります。「将来は今です」。将来は今から始まります。大変になってから声をあげる。大変じゃないから声を上げないではなく、大変にならないように今から声を上げる。でないとも何も変わりません。

とてもうれしいことに、いま若者達が動き出しました。今までは無関心だった若者達も「シールズ」として増えてきています。私の息子も入っています。息子



は大学院2年生で物流の勉強をしています。今就職活動中で、同級生はみんなメーカーに就職が決まっています。ところが息子曰く、メーカーに就職するといずれはなにかしら武器産業に関わる。武器そのものを作らなくても、その一部を作ることになってしまう。だからメーカーはやめて河北新報に記者として、これから自分の目で見て耳で聞いた、社会の本当のことを伝えていくのが自分の任務だと就職を決めました。

同じくらいうれしいことが、今ママ達も動き出しました。今まで原発の時ですら動くことがなかったママ達も、自分の子どもたちが戦争に行くことは決して他人事ではありません。学生の運動、ママ達の運動、この二つの運動を私達は支えなくてはなりません。



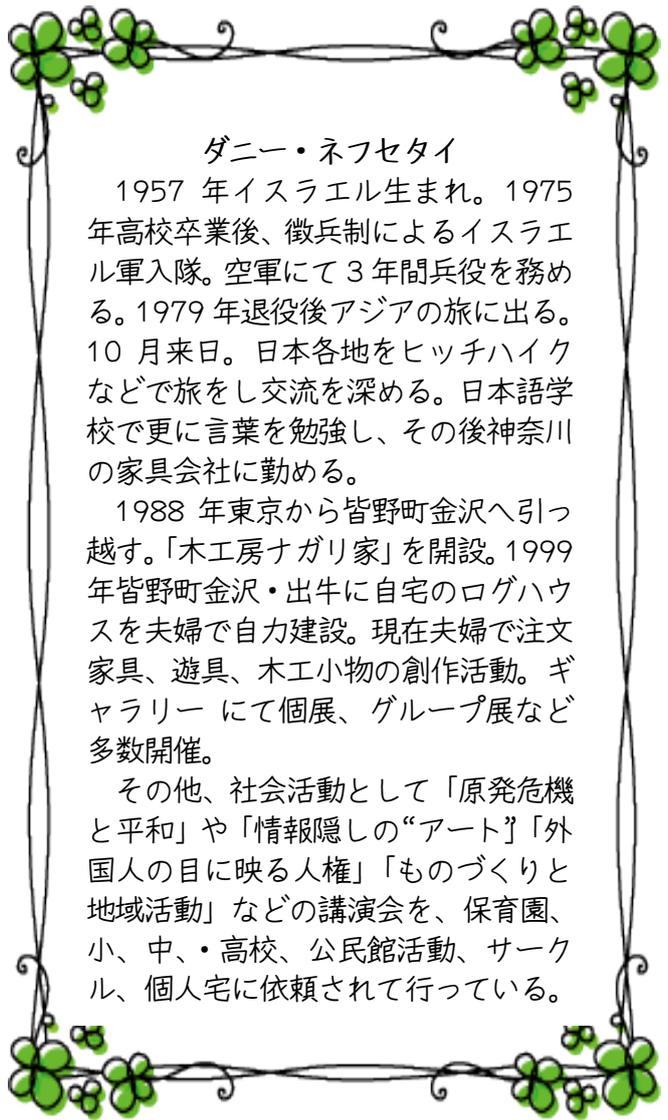
これで最後になりますが、私には一つの顔があります。一つは物作りの顔と、もう一つは地域活動家の顔、目指すことは何かというと、物作りとしてはとても簡単で、次世代も使える物を作る！そしてよく木工仲間と話すことは、木は育つのに約100年かかります。そしてやっと育った木を私達は家具にします。だったら少なくとも100年もつ家具を作ろう！ところが100年もつ家具を作るための一つの条件は、ただ丈夫な家具を作るだけではありません。

ここでもう一つの顔です。それは次世代も住める世界を作る！ 次世代が住めない世界ではいくら丈夫な家具を作っても自己満足でしかありません。この二つを考えて私は本職と社会活動に同じくらい力を入れています。

私はフェイスブックもやっていて、そちらではもっと具体的なことも書いています。ぜひ見に来てください。

他にも、どんな小さい会でも講演依頼があれば行きますのでよんでください。喜んでいきます。

(記録・まとめ/井上ゆき・竹森絹子)



### ダニー・ネフセタイ

1957年イスラエル生まれ。1975年高校卒業後、徴兵制によるイスラエル軍入隊。空軍にて3年間兵役を務める。1979年退役後アジアの旅に出る。10月来日。日本各地をヒッチハイクなどで旅をし交流を深める。日本語学校で更に言葉を勉強し、その後神奈川の家具会社に勤める。

1988年東京から皆野町金沢へ引っ越す。「木工房ナガリ家」を開設。1999年皆野町金沢・出牛に自宅のログハウスを夫婦で自力建設。現在夫婦で注文家具、遊具、木工小物の創作活動。ギャラリーにて個展、グループ展など多数開催。

その他、社会活動として「原発危機と平和」や「情報隠しの“アート”」「外国人の目に映る人権」「ものづくりと地域活動」などの講演会を、保育園、小、中、・高校、公民館活動、サークル、個人宅に依頼されて行っている。



ものづくりとして  
地域活動家として  
目指す事



100年

次世代も使える家具



次世代も住める地球